



2 学年「先輩講話」 ～やっぱり説得力がある先輩の言葉～

9月20日(金)、現在、大学の3年次に籍を置く本校の卒業生8名を招き、大学生生活や専攻している学問分野等について語ってもらう「先輩講話」を、全体会・分科会・座談会の三部構成で開催しました。2年生にとっては、大変、良い刺激になったのではないのでしょうか。

山形大学	人文社会科学・人文社会科学／グローバルスタディ	後木 優奈
福島大学	人文社会・人間発達文化／心理学・幼児教育コース	布川 まりな
福島大学	人文社会・人間発達文化／特別支援コース	池浦 暖乃
新潟大学	法・法	遠藤 勇貴
福島大学	人文社会・経済経営	田沼 佑太
山形保健医療大学	保健医療・作業療法	石澤 綾夏
筑波大学	情報・情報メディア創成	菊田 尚斗
福島大学	理工・共生システム	佐久間 莉央

第1部 全体会「卒業生パルディスカッション」

卒業生の遠藤さんに進行を任せ、「大学生生活」や「受験勉強のアドバイスや心構え」をテーマに、パネルディスカッション形式で行いました。高校生活とは違った大学の面白さや、一人暮らしや自宅通学生のメリット・デメリット、サークル活動、アルバイトの話など、先輩方の体験談などを交えて楽しくお話しをしてもらいました。

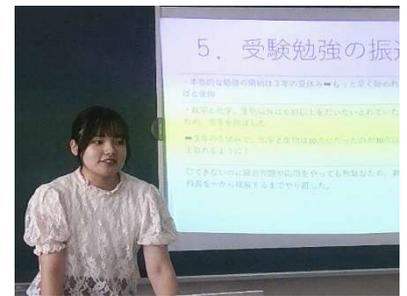


第2部 分科会「卒業生による講話」

それぞれが、現在、大学で専攻している「学問領域」などについて、具体的な実験・実習、授業やゼミの内容等について、講義形式で話をいただきました。各自が工夫を凝らしたスライドや動画等を用いての説明で、2年生も実感をもって理解することができたようです。

第3部 「卒業生との座談会」

学年を問わず、後輩たちが卒業生と近い距離で自由に話を聞くことできるように、放課後に設定しました。3年生が押し寄せ、積極的に卒業生に質問をしていた様子が印象的でした。



【 2 年生の感想 】

- 先輩方の講話を聴き、進路研究の大切さを改めて感じました。大学に入って「違った」ということがないように、自分が学びたいことが学べる大学を真剣に探そうと思いました。
- 「大学に入ることがゴールではない」という言葉が印象に残っています。この言葉は普段から先生方が教えて下さっていることですが、忘れないようにしたいと思います。
- 大学は自分でカリキュラムを組むことができる自由度が高い場であり、ゼミやサークル活動を通して人との関わりを楽しんでいる先輩が多いと感じました。
- 一人暮らしをしても困らないように、当たり前のことですが、今から自分のことは自分でやる。これからは洗濯や食器洗いなど積極的に手伝えるようにしたいと思います。
- 家庭学習の時間が平日2時間、部活動のある休日は4時間とまだまだ少ないので、「部活で疲れた」を言い訳にせず、隙間時間を利用して学習時間を確保したいです。
- 「頑張ると楽しいのメリハリをつける」という言葉が今の私の支えになります。頑張りすぎず、適度に息抜きをしながら、自分の理想に近づけるよう日常から意識したいです。
- 8人がそれぞれの方法で必死に受験勉強に取り組んでいたことが伝わってきました。先輩方のアドバイスを聴いて、受験勉強への意識が高まりました。



～ 進路室前に「先輩方から後輩へのアドバイス」も掲示してありますので参考にしてください ～

「不合格体験記」～やっぱり説得力がある先輩の言葉～

北九州予備校（通称「北予備」）という生徒数全国第3位の予備校があります。携帯電話使用禁止・茶髪禁止など厳しい校風ながらも毎年沢山の浪人生が集まってきます。入校すると、まず高校時代の“懺悔”＝『不合格体験記』の執筆が待っています。中には涙を流しながらペンを握る浪人生もいるとのこと。その一例を紹介します。

「私が受験を失敗した原因は“自分の心の甘さ”この一点に尽きる。私は高校生になりスマホを持った。高校生にとって、スマホは生活の一部になっている。SNSやゲームアプリは必要不可欠な存在だ。家に帰り一人になっても多くの動画視聴アプリがあり、ネットを通して様々な人とも関わることができる。私はその欲求に抗うとはしなかった。勿論、成績は悲惨なものになっていった。自分自身でもそれに気づき反省する機会は何度もあった。しかし、自分の成績が返ってくるたびに目を背け、またスマホを触ったり友達と遊んだりして現実逃避を続けていた。受験間近になって、自分が高校生活で積みあげたものが何一つないことに気づいた。しかし、遅かった。どこかの時期に自分を変えていれば、こんなことにはならなかったろう（一部改変）」

3年生は言うに及ばず、1・2年生にとっても、今が、そんな時機だとは思いませんか？合格して大学生活を送る先輩方のお話は、明るく希望に溢れる内容でしたが、北予備の『不合格体験記』は、身が引き締まる思いにさせてくれます。登校前に北予備に通う受験の先輩からアドバイスをもらおうと、毎日を大切にできるかもね。



「失敗学のススメ」

提唱者は東大名誉教授の畑村洋太郎さん（「失敗学」の命名はジャーナリストの立花隆さん）

“失敗学”もしくは“失敗工学”という学問分野があります。「失敗の原因」を究明し、同じ愚を繰り返さないようにするためにはどうすればよいかという「失敗防止の方策」を探求し、得られた知識を社会に広めることで類似の失敗を防ごうというもので、事故防止や減災の観点にも活かされています。ところで、あなたはこれまでの人生において失敗の経験はありますか？失敗を伴わない成功はないのですから、その経験自体は貴重なものです。ただ、「その失敗をこれまでの人生に活かしてきましたか」と問われればどうでしょうか？ここでは、『月間蛍雪時代』9月号の中の実験生の先輩方の失敗の数々を紹介します。

- ① 部活の先輩の例を見て、引退すれば成績が急に伸びると思い込んでいたが、そのような現象は全く起きなかった。後になって聞けば、その先輩は、英単語や古典文法などの基礎的な知識の定着には部活の現役中から励んでいたとの事だった。
- ② 模試の後の自己採点は、ただ点数を確認するだけで、解き直しには取り組まなかった。また、結果票が返ってきても偏差値が気になるだけで、自分が取り組むべき苦手分野を意識することはなかった。その為、別業者主催の次の模試で似たような問題が出題されたにもかかわらず解けなかった。模試の振り返りにきちんと取り組むべきだった。
- ③ 模試の志望校判定でD・E判定が続き落胆してしまい、家族からも不安がられて本当に行きたい大学を早々に諦めて安全校を受験校に選んだら、気の緩みとモチベーションのdownが重なって、安全校の合格すら危うくなってきた。
- ④ 進路について親は「お前に任せる」と言っていたが、3年次の三者面談で親の意見が一転し「県外はダメ」「私立はダメ」と言い始めるようになった。どうやら元々その考えだったらしく、親との対話を疎かにしていたことが仇となった。

今のあなたに当てはまる場所はありますか？今からでも遅くはありません。失敗の後の修正こそが大切なのです。

共通テスト出願説明会 ～共通テストまで、あと112日～

9月6日（金）、令和7年度大学入学共通テスト受験予定の約220名を対象に出願説明会を実施しました。進路指導部長からは、出願にあたっての注意事項とともに、3年生に向けて激励の言葉がありました。その話の一部を紹介します。

- ① 「受験は個人戦、しかし、受験勉強は団体戦」。集団としての雰囲気作りが、個々人の受験を後押しすることになる。学校全体として学びの雰囲気をつくっていきこう！
- ② 「同級生だけでなく、保護者や教師も君たちの応援団」であり、互いに信頼関係を築いて、最大限の成果を得られるようチーム「郡山東」として頑張っていこう！
- ③ 受験は大きな岐路だからこそ模試の結果で落ち込むこともあると思うが、それはどの受験生も同じ。発想を変え、自分の可能性に挑戦する気持ちを持ってほしい！



受験は個人戦。「募集要項」取寄せ・出願・交通手段の手配・ホテルの予約。すべて個人で行います！

今年度の共通テストは、例年同様、志願票の内容を担当団や進路指導部でチェックして学校としてまとめて出願しますが、来年度からは、各受験生が各個人の責任においてweb出願する形に変わります。また、これまで共通テストについては学校で取りまとめていますが、指定校推薦を除いては各自で募集要項を取り寄せ、出願することになります。1つの学校でも数十種類の受験方式があり、各自の受験の詳細をクラス担任が全て把握することは不可能です。日頃の生活から、自己管理・時間管理を徹底し、何事も人任せにするのではなく、主体的に行動できるよう心がけましょう。